

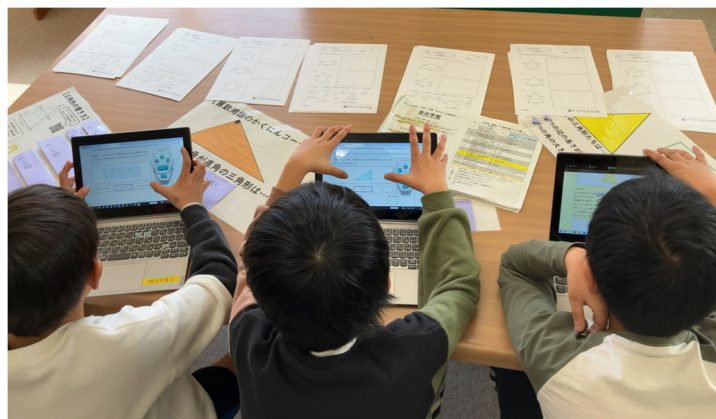
兵庫県丹波市立 竹山小学校



自ら選択し、学びに向かう楽しさを ～自由進度学習におけるeライブラリの役割～

「失敗OK」を合言葉に、児童主体で誰もが楽しいと思う学校づくりを目指すという竹山小学校の、「児童に委ねる」自由進度学習の実践をご紹介します。

自分にとって必要なことを考える、自分学習（自由進度学習）



▲ 三角形のヒント（教具）を使いたい児童は、図書室で学ぶ。

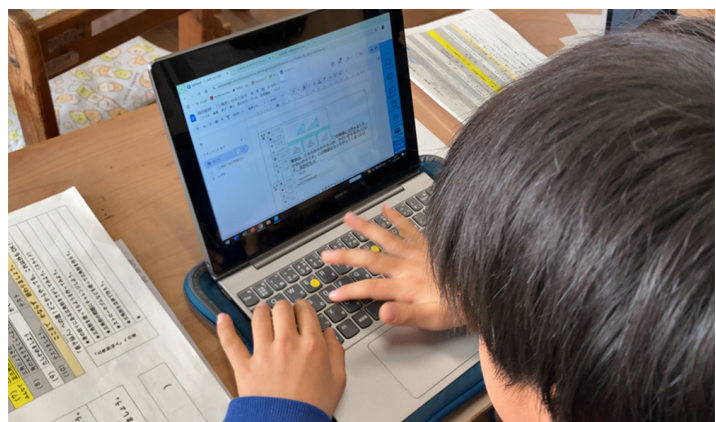
算数 3年：三角形

めあて どうしたらできるのか考えて、
自分学習を進めよう

今日は「三角形達人への道！」10時間のうち9時間目、「たしかめをしよう」の日です。

「今日のたしかめでは何をやる？なぜここで？考えながら動こう」という先生の声掛けとともに、児童は計画表を見ながら動き出します。

振り返りシートで、学びの軌跡を視覚化



▲ eライブラリのドリル問題をスクリーンショットし、振り返りシートに貼り付けて自己分析を書き込む。

eライブラリでは、自分でドリルを選んだり、先生が授業前に出題した「確認テスト」「自動個別課題」に取り組んだりします。「確認テスト」を解いた後は、間違えた問題に何度もチャレンジします。「自動個別課題」は、**これまでの学習履歴がもとになっているので、自分の「得意」「苦手」を知り、次に取り組む課題を決める材料の一つになります。**児童は難しかった問題、よく考えた問題を記録して振り返りに生かし、各自の次の目標設定や、解決方法の発見につないでいます。

インタビュー 視覚化で、児童、教員ともに分かりやすく

授業の最後に記入する振り返りシートは、問題のスクリーンショットやワークシートの写真を使うようになってから、「この問題がこういう理由で難しかった」「ここで間違ったけどこうしたらできるようになった」と、以前に比べより具体的に書けるようになりました。視覚に残るものがあることで振り返りがしやすくなったようです。

eライブラリは、**確認テストの結果が「○△×」で視覚化されて分かりやすく**、また、教員にとっても、**児童の頑張りが学習回数や時間などで数値化**され、褒めるきっかけや、支援が必要な児童の発見になります。



丹波市教育委員会
学習データ活用教育研究室
研究員
徳義 理人 先生

「自由進度学習」授業の流れ



3年生 算数「三角形への道！」			
学習活動	ドリル	レベルアップ (eライブラリ・プリント)	基本 標準 挑戦
(1) ガイダンス・計画 辺の長さに見をつけて、 三角形を仲間分けしよう。	①	モライブラリ 練習プリントの 場所	
(2) 三角形の辺の長さを見て、 三角形を見分けよう。	②	二等辺三角形 正三角形 二等辺三角形と 正三角形	
(3) コンパスを使って、二等辺 三角形や正三角形をかこう。	③	④ 練習プリント	
(4) 四角の中の三角形が、どんな 三角形か分けてみよう。	④	⑤ 練習プリント	
(5) 三角形をしきつめて、いろいろ な形を見つけよう。	⑤	え	



▲ 計画表にはeライブラリの範囲が書いてあり、難易度ごとに終わったドリルに自分でシールを貼っていく。

▲ 振り返りや計画表から次の課題を見つけ、ワークシートや紙のテスト、eライブラリから学び方を選び、進めていく。

教室 / 図書室

流れ・前回の
振り返り

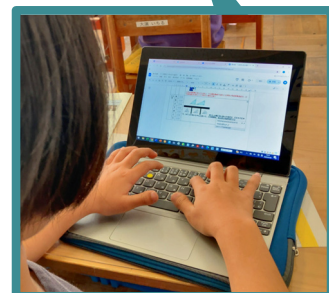
自己選択課題
(ワークシート・教具・eライブラリ・テスト)

まとめ
振り返り

確認テスト

自動個別課題・単元学習

確認テスト



▲ 図書室にはヒントが用意されていて、疑問に感じたことは、教具を動かしながら考えることができる。

▲ 確認テストに何度もチャレンジ。

▲ 今日の学びを振り返り、記録していく。

eライブラリ活用のねらい

- 難易度別に多くの問題があり、自動採点できるので、どんどん進みたい児童の学びを止めない。
- 先生は、支援を必要とする児童に関わる時間がとれる。
- 確認テストの結果が「○△×」で表示され、児童が自分の課題を見つけやすい。
- 学習履歴から、自主学習を頑張る児童を発見でき、その情報を先生間で共有できる。

確認テスト 三角形			
正解率	74点	経過時間	3分
学習内容	学習の進捗	ドリル平均点	評価
二等辺三角形	○	- 点	よく理解できています。
正三角形	△	- 点	確かな理解を自覚しましょう。
二等辺三角形と正三角形の辺の長さ	○	- 点	よく理解できています。
角	○	- 点	よく理解できています。
二等辺三角形と正三角形の角の大きさ	×	- 点	しっかりと復習しましょう。

▲ 単元の確認テスト結果を「○△×」で表示。

インタビュー

児童に委ね、寄り添える教員に



校長
足立 和宏 先生

児童に委ねて、児童が自ら選択し学ぶ自由進度学習において、教員の役割は、教えることよりも寄り添うことといえます。また、児童が安心して学びに向かえる場作りも大切です。

中にはゆっくり考える児童もいます。一斉指導では時間内に終わることが優先されがちですが、自由進度学習では、時間をかけてでも自分で考え理解し、学びに向かう楽しさを得られます。目標の時間に収まらなければ「次、どうすれば良い？」を児童と教員で一緒に考えます。「失敗OK」なのです。

eライブラリは、**自動採点や確認テスト後のガイドなど、児童に委ねることを意識した作り**になっていて、このような授業形態に、とても合っています。

※本紙の情報は取材当時（2024年度）のものです。

※ラインズeライブラリアドバンスを、「eライブラリ」と表記しています。

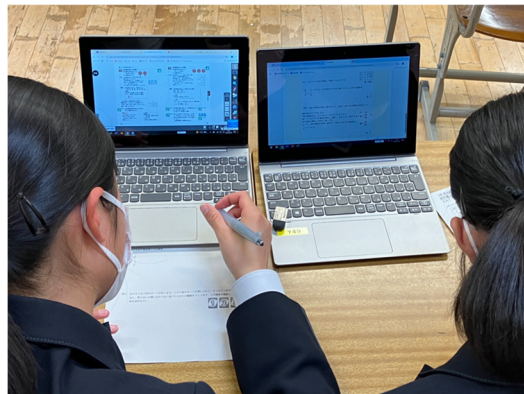
兵庫県丹波市立 青垣中学校



理解・解決を自分のペースで ～自由進度学習におけるeライブラリの役割～

生徒が自走していくための授業づくりの一環で、自由進度学習を取り入れているという青垣中学校。2年数学「確率」の、2時間目と3時間目の授業の様子をご紹介します。

数学 確率—2時間目— 樹形図を使った求め方

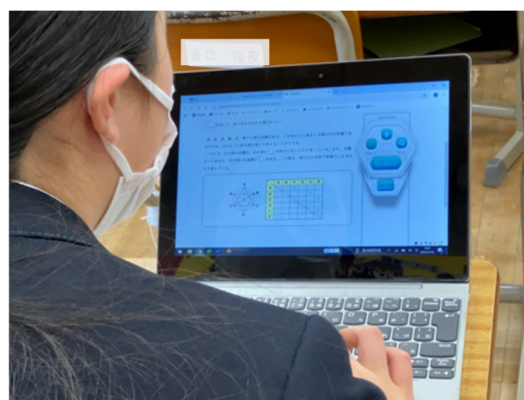


▲ ペアでプリントに取り組む。

「学び方を学ぶ」という目標と、学習の進め方を全員で共有した後、生徒はデジタル教科書やeライブラリの解説教材などを読み、個人で考えたり、友達と教え合ったりし、課題プリントを進めていきます。

先生は生徒の進捗を確認しながら、自作の解説スライドをタブレットに配布します。生徒はスライドを読んで答え合わせをし、押さえるべきポイントを確認します。

数学 確率—3時間目— 表を使った求め方



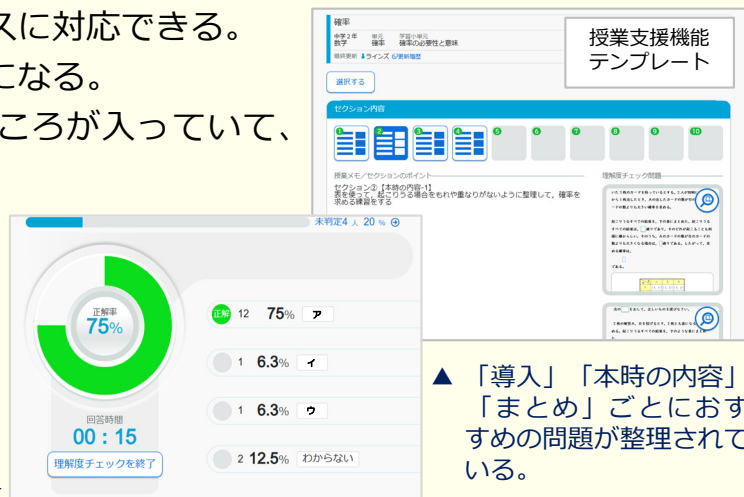
▲ 多くの問題に触れることで、プリントで得た理解を、さらに深める。

答え合わせを終えた生徒は、eライブラリのドリルや問題集を開き、次の課題へと進みます。eライブラリでは、**課題プリントとは異なる問題にも触れられ**、生徒は一層集中して取り組みます。

授業の終わりには「授業支援機能」で先生から問題を出題。「100%を目指そう!」の声掛けとともに、理解度チェックを行います。正答率が100%になると、生徒から拍手が起こり、緊張感のあった教室の雰囲気が一気に明るくなりました。

eライブラリ活用のねらい

- 問題数が多く、生徒により異なる学習ペースに対応できる。
- 教科書とは異なる記述や問題に触れる機会になる。
- 誤答選択肢は、生徒が引っ掛かりそうなところが入っていて、問題を通して課題の理解が深まる。
- 「授業支援機能」で理解度を測る問題を出題し、本時の内容を理解できているか確かめる。
- 理解度を測る問題は「授業支援機能」のテンプレートを活用し、教材準備時間を短縮する。正答率が一目で分かる「授業支援機能」。



「自由進度学習」授業の流れ



▲ 流れを確認したら、プリントをスタート。先生のスライドが配布されるまで、自分の力で解いていく。

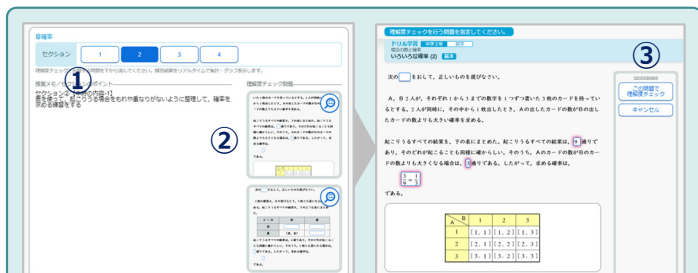
▲ 生徒同士教え合ったり、先生に質問したりしながら、各自のペースで課題に取り組む。

流れを
確認

課題プリント・問題集・eライブラリ

スライドを配布・答え合わせ

理解度
チェック



▲ テンプレートを活用すると ①セクション選択→②問題選択→③出題 の3ステップで利用できる。



▲ 最後に「授業支援機能」で理解度チェックを行い、学び残しがないかを確認する。

生徒の声「eライブラリを使ってみて」

- 課題プリントを解き終わった後に、自分のペースで問題を選んで、自分に足りないところを練習できる。
- 挑戦の問題をやってみて、難しければ難易度を変えられるのが、自分に合っている。
- 自分でどこまでできるか、分かるようになった。

インタビュー 学び残しなく、理解を確かなものに

自由進度学習では、生徒が自分で理解しようとし、解決することから意欲が増します。また、手が止まっている生徒にも「自分で気づくまで、もう少し考えさせてあげよう」という時間の余裕が生まれます。一方で、生徒に委ねる部分が大きいため、学び残しがないよう自作のスライドを使って、解説やポイントをしっかりと伝えます。

さらに **eライブラリの「授業支援機能」で、理解度を数値で把握できます**。生徒の解答が集められた結果、理解度が低ければ**「次の時間にここを押さえよう」と、教員側のやることが明確**になります。単元のポイントとなる問題がテンプレートになっていて、自作せずとも理解度を測る問題を利用できることは、とても助かります。

授業での活用のほかに、eライブラリを朝学習で活用したり、長期休業中の自主学習として取り入れたりしています。生徒には、自分の苦手なところを知り、学習内容を選べる「判断する力」を、eライブラリを通して身に付けてほしいと思います。



丹波市教育委員会
学習データ活用教育研究
所 研究員
桂木 飛雄馬 先生

※本紙の情報は取材当時（2024年度）のものです。

※ラインズeライブラリアドバンスを、「eライブラリ」と表記しています。